

詩 Poem

何にもない荒野で・・・

何にもない荒野で
僕は1人立ち尽くしていた。
何にもない荒野で
僕はただ果てしない地平線を見つめていた。
何にもない荒野で
あふれる感情を抑え込んでいた。
何にもない荒野で
僕は、一歩ずつ、足を踏みしめた。
何にもない荒野で・・・

年を経て

年を経て
過行く季節を
感じつつ
泰斗の虚空に
星空を見ていた

異国の空を

勉強のため
異国の空を
超えてなお
はるかな道を
遠く眺めつつ

荒野に立ってみよ！

荒野に立ってみよ！
あの地平線を見よ！
見渡す世界は、果てしない。
戦略を立てよ！
最短の道を駆け抜けろ！
壮大な空想をまとめ上げよ！
広大な地平に一筋の偉大な業績を打ち立てろ！

僕は、歴史家になったよ！

僕は、歴史家になったよ！
辞書と史料があって、
前へ前へと進んでいく
18世紀フランスに思いを馳せる。
広大な史料の山の中にさまよい、
やっと拾い集めた枯れ葉を
一葉一葉体に染み込ませていくんです。
一葉一葉体に染み込ませていくんです。